

日彫会報

社団法人
日本彫刻会

事務所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジョン・ド・諏訪202号室 TEL 03(3209)1861 FAX 03(3232)0557
<http://www.niccho.com/> email: webmaster@niccho.com

第39回日彫展を終えて



西望賞受賞作品前での「作家が語る鑑賞会」の様子

第39回日彫展を終えて —そして公益社団法人化へ—

理事長 蛭田 二郎

6月12日の搬入にはじまり、6月24日から7月6日までの、国立新美術館での、第39回日彫展は、多くの皆様のご協力のもと、盛会裡に閉会致しました。心から感謝申し上げます。

国立新美術館での開催は、三回目となりました。回を重ねるに従って陳列の方式も一定のコンセンサスを得て、定着しつつあります。

1000㎡の会場のスペースで約400点の彫刻作品の陳列を、と考えれば、これは最上級の評価を与えることが出来ると思います。

しかしながら私共には、自我自讃は許されません。なぜならそれは、進歩を阻むというだけでなく、それ自身が、内向きのヴェクトルをもつものだからであります。

私共は、会を挙げて今、公益社団法人への移行のための準備を着々と進めております。公益社団法人は「対社会」ということが命題であります。本誌はこれまで内部の連絡誌として位置付けてまいりましたが、これより「対社会」と言う視点を持たせ、会の広報誌として再出発いたします。これまでの私の公益事業を振り返ってみますと、展覧会開催の次に代表的事業は、「アートライブラリー」という研究誌の発行であります。これは一彫刻団体が発行している研究誌としては、例のない、すぐれた質の高い出版事業であります。

今後は今は亡き先輩諸氏の業績も視野に入れていきたいものであります。

継続事業として行ってきたものの第三は、第39回展から国立新美術館との共催事業として実施されました目の不自由な方々のための「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」であります。

これは、格別に高い評価を得ており、多数の感想が寄せられております。

さわってみる鑑賞行為は、触覚の芸術と言われる彫刻鑑賞の原点に係るものであり、一般健常者の鑑賞活動としても、意義深い事業であります。

「彫刻の普及、新人の育成をもって日本文化の進展に寄与する」という日彫会の第一の目的が定款に記されておりますが、秀れた新人の発掘と育成は、最重要課題であります。そのための方策を充分に考え実施して行く必要があります。

審査や、評価のあり方も種々研究されなければならぬでしょう。西望賞の外部審査員による選考は成功例の一つであります。

来年度は、第40回日彫展であります。会としては、知恵を出しあって、内容のある記念展にしたいと、鋭意構想している段階であります。

次回の第40回記念展は、充実した新鮮な力作が数多くならぶ展覧会であることをゆめみ、そして期待いたしております。



第39回日彫展会場風景

第39回日彫展開催記録

本会は、彫刻芸術に関する研究及び創作活動を振興することを目指して結成され、社団法人の活動の中心事業として、日彫展の開催を続けております。彫刻分野単独の美術公募団体としては、日本有数の規模を誇ります。六本木の国立新美術館へ会場を移して3度目となる第39回日彫展の総括をご報告いたします。

1、会期 平成21年6月24日(水)

～7月6日(月)

休館日 6月30日(火)

2、会場 国立新美術館3A

3、搬入総数及び陳列点数

搬入総数 375点

陳列点数 373点

内訳

正会員 260点

遺作 4点

会友 65点

応募 41点

無鑑査 3点

4、入場者数 8558名

(内訳)

一般 93名

学生 17名(小学生を含む)

団体 0名

招待状 4270名

招待券 607名

出品者 1039名

日曜日無料 2346名

障害者手帳をお持ちの方 87名

付添者 48名

70歳以上、子供 51名

5、日彫展開催中の鑑賞支援活動

・作家が語る鑑賞会(初日、最終日以外実施)

通算参加者 165名

・タツツア(希望者の申し込みにより実施)

通算参加者 32名

・盲学校鑑賞教室

6月26日(金)

筑波大学附属視覚特別支援学校

高校生 17名 引率者8名

7月3日(金)

東京都立葛飾盲学校

中学部 6名 引率者5名

7月6日(月)

東京都立久我山盲学校

小・中学生32名 引率者27名

※本号では6、7頁にこれらの盲学校鑑賞教室について特集記事としてまとめております。

6、地方展

東京での日彫展終了後陳列作品から、63点を基本巡回作品として選出し、地方展を開催致しました。

第39回 日彫北陸展

会期 平成21年7月15日(水)

～7月19日(日)

会場 石川県立美術館

陳列点数 84点

入場者数 1670名

第39回 日彫東海展

会期 平成21年7月22日(水)

～7月26日(日)

会場 愛知芸術文化センター

陳列点数 124点

入場者数 1680人

「触れてみる彫刻展」

参加者1名 付添2名

第39回日彫展と 日彫北陸展 日彫東海展

における授賞作品一覧

●西望賞 | 外部審査員による選考

第39回日彫展西望賞審査員

宝木範義 氏 (美術評論家)

西望賞は、故 北村西望 日本彫刻会名誉会長より寄贈された基金により創設され、日彫展における全出陳作品の中で、最も優れた作品に授与されます。

第39回日彫展 西望賞

堀内 有子 「風の子・夏」

130×80×60 石膏



【西望賞審査講評】

宝木 範義

北村西望は、彫刻作品に多くの物語を託した制作者であった。と同時にまた、豊かな感情の表現に秀でていた。昨年度の受賞者・時光新吾が、この振幅のいわば前者であったとすれば、今年の受賞作はむしろ後者を体現する作品であってほしい、というのが選考に当たっての私の眼目であった。

堀内有子の「風の子・夏」はまさにこの点で西望賞にふさわしい。この少女の夏の思い出は、おそらく誰もが記憶の片隅に留めている、幼いころの楽しかった気分を代弁し、大人になって分別を弁えた彫刻家がやれ彫刻芸術はかくあるべしと、小難しい事を言い始めるにつれて、どこかに置き忘れてしまった主題でもあるだろう。

だが、実は心の片隅にうずくまるこの記憶こそが、表現を志すものにとって、人格の深奥の魂に直結するもの、あえていえば人生を規定するものなのである。堀内有子はこの側面を発掘することに成功したことで、少女の姿を通俗的に情すことなく、一段高い地点に引き上げている。それにつけても、彫刻はあらゆる可能性の向かって開かれているべきだ。

他には、青山三郎「水鏡」、上田久利「風、よそおい」、亀淵元昭「ダンス」、木代喜司「微光」、佐藤隆男「黙考」、舟生厚「母と行く」、廣川政和「八月の風」、前芝武史「射手座」、高石麻代「忘れぬ木」、木田詩子「言葉をつむぐ砦」などに注目した。

日彫展審査員

第39回日彫展では、役員、正会員のうち左の15名が鑑審査にあたりました。

審査員長 蛭田 二郎

市村 緑郎 佐藤 隆男 堤 直美

野島 耕之介 池川 直 小島 靖成

高倉 準一 辻畑 隆子 村井 良樹

川田 良樹 新沢 博志 田丸 稔

堀 龍太郎 榎野 仁一 (以上15名)

●日彫賞 | 正会員、会友の中で、特に優秀と

みられる作品に授与されます。

●優秀賞 | 正会員、会友の中で、優秀とみら

れる作品に授与されます。

●新人賞 | 一般応募入選作品の中で、優秀

とみられる作品に授与されます。

第39回日彫展の授賞作品は以下のとおりです。

日彫賞



小関 良太「風の中で」
170×60×45 FRP



川村 洋平
「簞崎」



梶川 俊一郎
「C'est la vie」



丹羽 俊揮
「SPEED-TRICK-」



時田 直彦
「phonon-フォンノン」



前芝 武史
「射手座-外出前の風景-」

優
秀
賞



舟生 厚「母と行く」
160×70×60 石膏



東 誠「あした」
183×60×40 石膏FRP



上松 真弥「風の行方」



市村 成保「微睡む」

新
人
賞



升田 幸太郎「ゆれる」



鈴木 徹男「春の野」



白石 恵里「相」

第39回日彫展広報リーフレット
平成21年4月15日発行
第39回日彫展図録・目録
平成21年6月24日発行

第39回日彫展出版物

日時 平成21年6月24日(水) 午後5時より
場所 ホテルオークラ東京
(港区虎ノ門2-10-4)
別館2階 メイプルルーム

第39回表彰式及びオープニングパーティ



神谷 健司「雲の向こう」



岡本 和弘「キザシ」

第39回 日彫東海展
中日賞



宇津 孝志「家路」



横山 丈樹「Okutoshi」

第39回 日彫北陸展
北陸日彫会賞

北國新聞社社長賞

本会の社会貢献活動紹介

― 第39回日彫展における盲学校鑑賞教室 ―

日彫会では第36回展より視覚障害者の方々への鑑賞支援を目的に、触れる彫刻鑑賞プロジェクトを行っています。



作品鑑賞中の様子：久我山盲学校

展覧会期間中には、盲学校の児童生徒さんを対象に、鑑賞教室を実施しています。

今後も視覚障害者の方々への鑑賞支援を継続的に行う予定です。今年度は国立新美術館との共済事業（教育普及事業）として実施しました。

この頁では第39回展の盲学校鑑賞教室（視覚障害者の方々への手引と作品に触れての彫刻解説を出品者が行います）の様子と参加校の児童生徒さんの感想を中心に掲載します。

・来場校

第39回日彫展では3つの学校からの参加がありました。

6月26日（金）

筑波大学附属視覚特別支援学校

高校生17名

引率者8名

7月3日（金）

東京都立葛飾盲学校

中学部6名

引率者5名

7月6日（月）

東京都立久我山盲学校

小・中学生32名

引率者27名

・展示方法

鑑賞教室では、事前または、事後に点字や文字を拡大した解説書をお渡しします。作品の特徴や作者の意図などを書いたものです。

また作品鑑賞の時間は、みやすいように展示台を通路の中央に出して、できるだけ360度ぐるりと鑑賞できるようにします。（写真右下）



作品鑑賞中の様子：久我山盲学校

✎ 子どもたちの感想 ✎

各盲学校より後日、感想を日彫会宛にいただきました。その中からいくつかを紹介いたします。



（各感想文 久我山盲学校より）

ぼくがさいごに見た、人がすわっている人げんの作ひんが、おもしろかったです。右足が左足の上にあつて、せながまがつていました。大人が2人ぶんにいとほこべないそうです。

小学部 3年



久我山盲学校 小学部児童（4年生）からの
感想文（代筆）と絵（児童作成）

ぼくは、いぬのちようこくがたのしかったです。
おおきくてほんもののいぬみたいでした。またい
きたいです。

小学部 4年

ぼくはねこのちようこくがすきです。

ねこがうごきそうでした。またいきたいです。

ねこが月までとんでいました。

小学部 4年

ねこやいぬ、かえるをさわりました。

とらのしっぽもさわりました。

いっばいさわられてよかったです。

小学部 4年

今日は本当にありがとうございます。

忘れられない木は、自分の中で忘れられません。

私はどこに住もうかと考えました。

私は屋上がいいなあと思いました。

また行きたいです。ありがとうございました。

中学部1年

こんにちは。

一番よかったのは、トラさんがよかったです。

トラの後ろ足がよかったです。なぜなら、後ろ足が長

かったからです。あとは、しっぽが長かったから

です。

次にうさぎを見ました。うさぎは寝ているかっ

こうでした。さわった時はツルツルしていました。

「ちよつと待つて」という

作品をみました。手に顔を

当てるポーズでした。あと

は「天をおおぐ」を見まし

た。どんなポーズかという

と、手と足を組むポーズで

す。ネコもみました。ネコ

のかつこうは、座って足を

組むかつこうです。さわっ

たら、ざらざらしていました。

今日は本当にお世話に

なりました。

中学部 3年



作品鑑賞の様子

筑波大学附属視覚特別支援学校

触れる彫刻鑑賞プロジェクトメンバーの感想

盲学校鑑賞教室は、多くの児童・生徒の皆
さんの熱気に包まれ、賑やかで楽しい場とな
りました。中でも印象に残っていることは、
作品の間を縫うように一緒に歩きながら、彫
刻家になってみたいと話してくれる生徒さん
の笑顔です。もっと彫刻を見せてあげたい、
と強く思った瞬間でした。障害のある子ども
達のそうした思いを、作家として心に留めな
くては、と思った瞬間でもありました。(N)

今後も日本彫刻会では、継続して触れる彫刻鑑
賞プロジェクトを行っていく予定です。その模様
は、展覧会終了後の会報でお知らせをいたしま
す。

第79回日本彫刻会通常総会報告

- ・開催日時 平成21年7月27日(月) 午後3時
- ・場所 日本芸術院会館 講堂
- ・出席者 219名(出席44名委任状175名)
- ・議事

第一号議案 平成20年度庶務・事業報告承認の件

第二号議案 平成20年度決算報告承認の件・監査報告

第三号議案 会員状況承認の件

第四号議案 その他の件

・報告事項 全議案とも異議なく承認された

第78回通常総会において可決された本会定款の変更について平成21年4月3日付で文部科学大臣より認可が下りた。

日彫会选择展開催報告

平成21年4月29日から5月5日まで日本橋三越本店6階美術特選画廊において会員の中から62名を選抜し、作品展を開催いたしました。

具象の小品が並べられ、作家による解説も行われました。盛会裡に終了いたしました。

慶事

正会員 圓鐔 元規 先生

第40回日展・文部科学大臣賞受賞

平成20年11月

役員 宮瀬 富之 先生

日本芸術院賞受賞

平成21年3月

展覽会開催のご案内

第7回日彫会新鋭選抜展のお知らせ

平成21年度の事業として、平成22年3月28日(日)から4月10日(土)まで、銀座の美術館・ギャラリー青羅にて、日彫会の若手を中心とした展覽会が行われます。開催の折にはどうぞ、お気軽にご高覧ください。

堀内 有子	小関 良太	東 誠
舟生 厚	丹羽 俊揮	前芝 武史
梶川俊一郎	川村 洋平	時田 直彦
小瀧 勝平	永江 智尚	宮坂 慎司
植田 努	小西 徳泉	浅香 直子
窪 信一朗	河口 知佳	伊東 貞子
坂本 健	武本 大志	片山 康之
一鉄田 徹	間島 博徳	堀 龍太郎
長谷川倫子	森 矢真人	堀 龍太郎
紺谷 武		三政 洋一

(出品者以上28名)



ギャラリー青羅 (地図)
東京都中央区銀座3-10-19
美術家会館1階

訃報

正会員 陶山 定人先生 平成21年8月没
謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

◆冒頭の蛭田理事長の言葉の中にも述べられたように、日彫会は公益法人としての転換期にあります。

会報委員会もこれを受けて、会員向けの会報から広報誌としての役目を担い一般の方々にもむけ、展覽会の開催にとどまらず、より社会貢献に重点をおいた「作家が語る鑑賞会」や「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」などの活動を紙面に大きく取り上げ一般の方々に親しんでもらえるように編集致しました。

◆次回の日彫展は40回目節目を迎えます。記念事業の準備も着々と進められております。

◆本会の研究誌「アトライブラリー」の充実やホームページでの広報にも努めてまいります。

◆今後とも皆様のご意見ご希望をとり入れ、活動が続いていきたいと考えております。よろしくお願ひ申し上げます。

編集委員 小橋暁子・小宮山美貴・柴田良貴

野原昌代・吉岡 徹

日彫会報 No.64 平成21年10月20日発行